



会長	小井田和哉	青少年奉仕	石橋 信雄
副会長	村井 達	幹事	深澤 隆
クラブ奉仕		会計	渡辺 孝
会長エレクト	小林 幹夫	会場監督	接待 一雄
職業奉仕	佐々木泰宏	直前会長	道尻 誠助
社会奉仕	橋本八右衛門	副幹事	正部家光彦
国際奉仕	妻神 和憲	会計補佐	紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
 同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を！

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

5 月 は 青 少 年 奉 仕 月 間 で す

第 3 2 2 4 回 例 会 2 0 2 2 . 4 . 2 0

▶ ビジター ビジター 国際ロータリー第
2830地区南グループガバナー補佐
岩岡隆雄さん

ンやザーサイをつまみながら、二次会らしきことをし、それでも9時半くらいにはお開きになりました。宿泊もメトロポリタンでしたので、ほぼ仙台駅周辺から動かずに、翌朝はそのまま朝食をとって、8:20の新幹線で帰ってきました。

会 長 要 件 小井田和哉 会長



だいぶ暖かい日が多くなってきました。桜の花もほぼ満開とっていいのではないのでしょうか。わたしも先週の日曜日に孫と犬2匹を連れて近

所の新井田公園に桜を見に行ってきました。あわただしく30分ほどで写真を撮ったりしてすぐに帰ってきましたが、週末にゆっくり桜を見たいと思っています。風が強くなって散ってしまったりしないように、もう少し桜が長くもって欲しいなと思っています。

昨日久々に仙台に出張しました。コロナ禍での出張ですので、仙台駅に着いて、会場は駅近くのホテルメトロポリタン仙台の中華のお店でした。そこで打ち合わせ、その後、会食。人数も9人で個室でしたので会食ができましたが、さすがに二次会はまずいだろうと、食事が済んだ後にその会場でちょっとピータ

今のコロナの状況を考えますとこれが当たり前なのかもしれませんが、徐々に世の中はwithコロナという考え方も出てきて、そういうふうには世の中はこれから変わっていくのかと感じています。きのう会ったメンバーも年に2、3回会う東北の同業者の方たちですが、普段であれば大いに二次会、カラオケに行っ盛りに上がるところをみな9時半にさっさとホテルに戻る。ちょっと寂しい思いをしましたが、だんだんこういうことも二次会までも含めてできるようになったらと思っています。

当クラブでもお花見例会が延期になり来月末、6月最終例会と2回の夜の例会を予定しています。今日の理事会でまずは来月の夜例会（新緑例会）が開催可能かどうかを含めて検討したいと思っています。可能であれば何とか皆さんとお酒を酌み交わしたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

岩岡 隆雄南グループガバナー補佐ご挨拶



先週、皆さんのレターボックスにIMの要覧を入れさせていただきました。

2月6日に予定していたインターシティーミーティングでしたが、集まっていたのIMはできないということから、当クラブIM実行委員会でただやめるではなく、何か工夫ができないだろうか、今回報告をしていただく予定の樋川慎太郎りんごミュージック社長の人となりや多少でもわかっていただけるものがあればということで、今回それを冊子にして皆さんのお手元にお届けさせていただきました。

本来、このグランドホテルに南グループの皆さんが一堂に会しての学びとその後の親睦による懇親を企画していた中で、何もできないというのはもったいないということで、このような運びになりました。本当に簡単なものではありますが、りんごミュージックという会社は今年で22年目の会社ですが、若い子たちの夢を地元で叶えることができる、そういう活動をしておられます、社長の弘前西RCの樋川慎太郎さんです。同じロータリアンとしてお話を聞くチャンスが他にもあるかもしれませんので、状況をみなしながらご縁があればと思っています。今回は遅くなりましたということで資料をお持ちしました。

この資料を各クラブにお届けしながら、各クラブを訪問させていただいた中で、いろいろとコロナに対する心配をされながらもクラブによってはきちんと60分、食事をしながらの例会もありました。また時短でお弁当持ち帰りのクラブもあります。ここは皆さんの安全と社員と家族の方々の健康を守っていただくのが一番最初にあるべきことだと思っていますので、そこを踏まえて例会が無事に進められるように、そういうことを各クラブ回ってみて感じました。

まだ数クラブ訪問していませんが、連休に入りますので、その後感染者の数が増えないことを祈って、今のうちに皆さんのクラブにお伺いしてご挨拶をさせていただきたいと

思っています。5月になると地区協議会があり、次年度がいよいよ動き始めます。そういった中でまた新しい体制になるかと思いません。新年度に向けて準備をされながらご活躍いただければと思います。

幹事報告 深澤 隆 幹事



○先週の例会で、八戸北高校の生徒さんが留学を希望されていることで交換留学生を受け入れる側としての可能の是非について皆様にご検討をお願いしたところでした。もし受け入れ可能なご家庭、企業がありましたら、ぜひわたしか会長までご一報をいただければと思います。

○ウクライナ人道支援金は区切りよく10万円集まりましたので、それをもって寄付を納入したいと思っています。

○緑の羽根の募金をよろしくお祈りします。

○本日例会終了後、理事役員会を開催します。

委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員



○ニコニコボックスの報告

- ・誕生祝 峯 正一
鴨澤 諭・石橋敏文さん
- ・奥様誕生祝 小井田和哉
増田 敏・小林幹夫
深澤 隆さん

・結婚記念日 道尻誠助・橋本八右衛門
今 彰夫・種市良意さん

広瀬知明さん ビブリオバトル村井さん、渡辺さん、紺野さんよろしくお祈りします。

廣田 茂さん ニコニコデー

職業奉仕委員会 佐々木泰宏委員長

来週の例会は職場訪問例会です。以前にもお話しましたが、八戸総合卸センター内の共同配送の現場を見学いただきます。ホテルからバスも出ますし、現地に直接お出でいた



だいても構いません。30数名の方がご参加の予定ですが、お時間の許す方はホテルにお出でなっても、現地に直接お出でになってもいいですので、ぜひご参加ください。

スーパーユニバースに対するいろいろな商品の仕分け、配送状況の現場が見られますので、いい職場訪問例会になるのではと期待しています。

ロータリーの友委員会 広瀬知明委員長

「ロータリーの友 4月号でビブリオバトル」

バトラー：

Mテーブル 村井 達さん

「シリーズ この人を訪ねて

カール・ベングスさん（十日町RC）」

Mテーブル 渡辺 孝さん

「すずちゃんのJust say cheese! ⑩

スマホ写真の落とし穴」

Mテーブル 紺野 広さん

「ロータリー俳壇/歌壇/柳壇」

Mテーブル 村井 達さん

「シリーズ この人を訪ねて

カール・ベングスさん（十日町RC）」



P 9～P 12に載っている「シリーズ この人を訪ねてカール・ベングスさん（十日町RC）」をご紹介します。

カール・ベングスさんはドイツ人で建築デザイナー。クリスティーナ夫人と共に住んでいるのは、豪雪で有名な新潟県十日町市松代竹所という集落です。市に所属していますが、ここは棚田のある農村地帯で、典型的な八戸弁でいう“在郷じゃいご”です。点々と建っている数少ない家、しかも茅葺屋根がいかにも古い山村の古民家です。しかしその壁は鮮やかな黄色、ローズ色、緑色ですが、同時に屋内のほうの機械設備的にはモダンな設備を持っている、というひじょうに洒落ている集落です。

彼の住まいは築120年の典型的な茅葺古民

家。彼の建築設計会社のオフィスも117年前に建てられた老舗日本旅館を改装したもの。これもまた古い日本建築です。彼は十日町ロータリークラブの会員ですが、秘書の女性はロータリー財団のプログラムでオランダ留学の経歴の持ち主です。この”じゃいご”竹所集落がカール・ベングスさんの洒落田舎の作り場です。

カール・ベングスさんは1942年東ベルリン生まれで、19歳の時にソ連圏の東ベルリンから自由主義圏の西ベルリンに東西の川を泳いで脱出した経歴の持ち主です。ロシアのウクライナ侵攻を思い浮かべる話です。細かなことは省略しますが、12歳から習っていた柔道、父親譲りの日本文化への興味、日本家屋への関心等など、1966年から日本在住。田舎町への移住、古民家再生へとつながったということです。

「奇跡の集落」ということばが入っています。カールさんの古民家再生が地元の民放のテレビで放送されると、マスコミがバンと駆け付けた。そして若い人たちが外部からこのじゃいごの地に移住し始めて、今やなんと集落の平均年齢が70歳から40歳に若返った。過疎寸前だった竹所は今、奇跡の集落と呼ばれているということです。カールさんの手がけた再生古民家は全国で60棟、注文は今も引きも切らないということです。“洒落た田舎”作りの最中だということです。

“洒落た田舎”。皆さんも聞いたことがあるかと思いますが、何を隠そう、わたしのガバナー時代の地区のサブテーマでした。そして拙著ですが、2014年に出版した電子書籍の題名でもあります。彼はわたしと同じ80歳で、共に洒落た田舎作りを目指したロータリアンです。皆さんも地域づくりにいろいろ貢献されているわけですが、ドイツ人のカールさんは日本で洒落た田舎を創った。わたし日本人の村井達はアメリカで洒落た田舎を創った経験の持ち主です。

アメリカ、オレゴン州ポートランドの近くの田舎町に桃川が製造する酒蔵sake 1 コーポレーションを設立しました。古い木材工場を

譲り受けて醸造工場に改装して、こじんまりとした洒落たテースティングルームやアメリカ本社オフィスを併設しましたし、小さいながらも日本庭園を造りました。

カール夫妻はふるさと作りの内閣総理大臣賞を得ています。わたしはできればアメリカ大統領から洒落たふるさと作り大賞がもらえないかと思っています。そういった意味でこの記事は何とも楽しい内容でした。

カールさんはこんなことばを残しています。「日本にはこんなにいい古民家があるのに、日本の多くの人たちはせいぜい30年しかもたないような家を作っている。まるで宝石を捨てて砂利を集めているみたいです。」

Mテーブル 渡辺 孝さん

「すずちゃんのJust say cheese! ⑩

スマホ写真の落とし穴」



「すずちゃんのJust say cheese!」の連載の中からお話します。去年の7月から始まり、今月で10話目になります。今月のテーマは「スマホ写真の落とし穴」です。

基本的にスマホカメラはレンズが広角レンズになっていますので、すずちゃん曰く、近くの人と円形のを混ぜると円形がやたら小さくなると書いてあります。確かにわたしもカミさんと出かけたときにカミさんを立たせて、岩手山の雄大な山と一緒に撮ったらすごく小さく写ったという経験があります。

もう一つは広角レンズをさらに広角にするアタッチメントがあり、これをセットして写真を撮ると顔がゆがみますと書いてありました。確かに広角レンズにさらに広角レンズを足しますので、かなり歪んだものになります。わたしがそれを使っているのは、仕事柄、狭い部屋、例えばトイレなどの写真を撮るときにそのアタッチメントをはめると全体が写りますが、そうでないと電気しか写らないというようなところがあります。すずちゃん自身はソニーの一眼レフの結構高いものを使っていると思います。その写真と並べてスマホの

写真と比べるとちょっと違います。確かに全く違うと思います。

それはそれとして、この10話の連載の趣旨のところにこのように書いてあります。「長い説明文よりも1枚の写真のほうが伝える力が大きいこともあります。あなたの伝えたい1枚を撮ってみませんか。」確かに百聞は一見にしかずというように、現在でいうとウクライナの状況は写真というよりは動画で配信されてきます。言葉で聞いているよりはるかに状況の把握ができて、ちょっと辛い動画が多いわけです。確かに1枚の写真、動画は伝える力が大きいというふうに思っています。

仕事のスマホはかなり頻繁に使っています。従業員にスマホを配っていて、現場に行くとそこから動画を見せてください。自分の顔も含めてZOOMみたいな使い方をラインでやっています。それを映してもらって現状を把握しながら、ああだこうだの指示をしたりしています。意外と社員は戻ってきてから報告したがるのを現地で報告するように、という道具として使っています。これは説明より写真を見たほうが早い、確実に状況を把握できるという使い方をしてしています。

プライベートでは家族を撮っています。カミさんと母親の二人です。写真より動画を多く使っています。なぜかというカミさんを立たせて写真を撮るからじっとしていても、これは絶対無理な話です。動画で姿を追いかけて撮って、あるいは意に介さずに動いている母親を撮って、けっこうな枚数を貯めています。

それは伝える力、誰に伝えたいのかをすずちゃんのJust say cheese!を見ながら考えてみました。わたし自身に当てはめてみますと、たぶんこれは10年後、15年後に自分自身で10年前のカミさんなり母親なりを見て、自分自身が楽しむため。あるいは家族と一緒に楽しむためではないかなと思いました。

Q 広瀬：渡辺さんとわたしは実はロータリーの式典のときにわたしが写真で、渡辺さんが動画担当でした。渡辺さんと動画・ビデオ撮

影との出会いはどんな感じでしたか？きっかけを聞かせてください。

A 渡辺：スマホです。ビデオカメラではなくスマホです。子供が小さいときにビデオを撮っていたという記憶もあまりありませんが、スマホになってから写真よりビデオかなという感覚で、ビデオをかなり撮っています。

Mテーブル 紺野 広さん

「ロータリー俳壇/歌壇/柳壇」



このページを読まれる方はいらっしゃいますか？縦組みP14~15の見開き、俳句、短歌、川柳の投稿ページ「ロータリー俳壇/歌壇/柳壇」のご

紹介をします。

4月6日の例会時にロータリーの友4月号が配布されるやいなや、広瀬ロータリーの友委員長にどこを担当しますかと問われ、パラパラとページをめくっていくうちに、今まではあまり目を通すことをしてこなかったセクションでしたが、なぜかこの見開きが目に留まりました。3年前の築館年度に今のロータリーの友委員長にあたる当時は雑誌委員長といていましたが、その雑誌委員長を拝命したときにも、この息抜きパートには最初の数度しか目を通しませんでした。ないがしろにしてきた反動なのかもしれませんが、今回ビブリオバトルにあたりこの投稿ページを選んでしまいました。なぜこれがロングランとして続いているのかすごく不思議だと思って、ちょっと考える時間をいただいたと思っています。

築館年度の当時は国際ロータリー、ローターアクトの活動、特に奉仕活動にどうしても目がいて、それらの内容を毎月レデュメを作って例会で紹介して、またほぼ毎月開催していた読後会にも資料を準備して、皆で酒を飲みながら読後会IDMインフォーマル・ディスカッション・ミーティングとして自由に意見を述べ合っていました。他業種の方の意見がわたしの想定した範囲以外のところから出て、飛び交い、たいへん参考に

なって面白かったことが懐かしく思い出されます。もうすぐコロナも終わりそうですが、そうなるのであればいいなと思っています。

その時に子どもの貧困や子ども食堂がテーマとしてロータリーの友の紙面を賑わせていました。そんなこともあり、道尻年度には母子生活支援施設への活動を行わせていただきました。この場をお借りして多くの方々に御礼申し上げたいと思います。

母子生活支援施設小菊荘で寮長をされていた佐藤さんから3月いっぱい配置換えになるに際してお礼とあいさつのメールが届いております。メールの文中に正部家さんが学習指導をなさっていた子どもたちが皆、志望校に合格したことへの感謝が綴られていました。正部家さんにわたしからお礼を言うのはちょっと筋が違うかな、僭越かなと思いますが、子どもたちに代わって御礼申し上げたいと思います。ご指導ありがとうございました。

本題のビブリオバトルですが、選者が3名おり、三部門それぞれ超一流の人です。俳壇の選者は長谷川權さん（東海大学特任教授、朝日新聞俳壇選者）、歌壇は佐々木幸綱さん（芸術院会員、早稲田大学名誉教授、紫綬褒章受章、83歳）、柳壇は三遊亭白鳥（落語協会所属のバリバリの落語家で、わたしの一つ下の学年の方、増田敏さんと同学年の方です。）ロータリーがお願いする選者の方々です。すごい方ばかりです。

投稿者は毎月同じ人が載っています。ご夫婦だろうなという方も何組か載っています。今月号を見ますと、過去1年の雑誌を見ますと、同じ名前が何度も何度も繰り返し出てきます。半数くらいは過去にも載った方でした。すでに俳壇、歌壇、柳壇はサロン化しているために潰せないんだろうなという気がしました。固定された投稿者がすばらしい選者たちに選んでもらうべく、誇り高くも激しい鎬を削る戦いの場なんだろうと感じました。

ここに乗り込める選手は当クラブにいるのかと考えました。川柳なら大丈夫ではないかと思いました。当クラブはダジャレの達人の宝庫です。それぞれが職場や家庭でオヤジ

ギャグを飛ばして、ときに無視されたりしていると思います。決して無視できない達人、マスター、巨匠が当クラブには3人いると常日頃から思っています。

言うまでもなくキングは前原義一さん、尽きることのない泉のように次々とダジャレが出てきます。そのダジャレのスタミナには1952年ヘルシンキオリンピックで5000、10000、マラソンの金メダルを獲得したザトベックに匹敵する凄みを感じます。一人目はザトベック・キング・マエハラさん。

二人目は落ちのつけ方が自分でもわからなくなり、周囲を困らせる道尻誠助さん。落ちを理解できずに困る人が多発し、もやもやした空気を辺りに立ち込めさせる達人です。時に怒りさえ覚える所業を繰り返しますが、時間差で生じる笑いがクセになり、欲しがってしまうかもしれない、麻薬のような恐ろしさを持ち合わせています。ほのぼのした人柄で乗り切ろうとしていますが、実は笑いの麻薬をニコニコドラック・道尻さん。

最後は落語の経験知識に裏打ちされた真打正部家光彦さん。落ちを言った後、さりげなく解説を入れお跡がよろしいようで、で終わる、道尻さんとは対極にある清涼感を感じる王道の洒落。わたしは常連さんたちが幅を利かせているロータリー柳壇に割って入れる筆頭は当クラブの真打正部家光彦さんではと期待しています。これからは友をもらったらま

ずロータリー歌壇・俳壇・柳壇のページを開いて、正部家光彦さんの名前を探していきたいと考えています。正部家さんには先ほど小菊荘からのお礼を伝えましたが、食らえてロータリー柳壇に勝手に投稿していただくことに決め、エールをお送りします。時間に余裕ができましたらご検討をお願いします。

わたしの心の琴線に触れる物悲しい句がありましたのでご紹介します。

「愛らしい サボテンの花 とげの中」わたしの娘は中学3年で、まだかわいく頭をなでたりもしたいのですが、最近“なんだオヤジ”の強いオーラを出していて、わたしを寄せ付けません。愛らしい サボテンの花 とげの中

広瀬：三者三様のひじょうに楽しい発表でした。これからチャンプ記事を決めたいと思います。発表が上手かどうかではなく、どの記事を読みたくなったかを基準に挙手をお願いします。今回は村井達さんがチャンプになりました。

5月は最後のビブリオバトルになります。Mテーブルの御三家に締めていただければと思います。

正部家光彦副幹事：柳壇への投稿を真剣に考えていきたいと思っています。身に余ることばをありがとうございました。

出 席 報 告						出 席 委 員 会													
第3224回例会（4月20日）			第3222回例会（4月6日）																
出席率		100(56.7)%		出席率		100%		修正出席率		100%									
総会員数		61名		出席数		34名		総会員数		61名		メイクアップした人数		0名					
出席義務会員		33名		出席免除会員		2名		欠席数		26名		出席義務会員名		出席免除会員名		欠席数		0名	

—— 第3225回 職 場 訪 問 例 会 2022.4.27 ——

職場訪問例会は(株)共同物流サービスの見学ということで例会は八戸総合卸センター展示場コネクトホールにおいて会員30余名出席のもとに行われました。

会長要件、幹事報告の終了後、佐々木職業奉仕委員長から訪問の意義と、係の三宅さん

から挨拶、そして三浦さんからスライドを使って物流センターの概要の説明がありました。第2物流センター（グローサリーセンター）に移動して現場を見ながらの説明となりました。



